

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	今井 岳（白井中学校）
<p>これまで行ってきた社会教育に関わる活動について</p>	<p>1 教養に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心理学の公開講座への参加 ○オープンカウンセリング等の勉強会、講演会への参加 <p>2 趣味、レクリエーションに関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アルペンスキーに関して <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県スキー連盟の各種大会運営に参加 ・新潟市スキー協会の各種行事の運営に参加 ○自転車（スポーツバイク）に関して <ul style="list-style-type: none"> ・各種大会や講習会の運営に参加 ・フィールド（コース）の整備活動やコース造成活動 ・その延長として、里山の環境整備ボランティア活動への参加 <p>3 地元コミ協主催に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒対象の地域行事の運営参加
<p>その他自由記載</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・社会教育委員会議として調べてみたいことなど 	<p>1 広報活動に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般市民のニーズがどれくらいあるのか 公的な取組がどの程度周知されて、認知度はどれくらいあるのか <p>2 公的補助金に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民レベルでの活動がたくさんある中で、補助金などの公的資金がどのように活用されているか。また、その補助金等の決定の手順について、偏りがないかどうか。

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	江口 和美
<p>これまで行ってきた社会教育に関わる活動について</p>	<p>社会教育分野での活動はありません。</p>
<p>その他自由記載</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・ 社会教育委員会議として調べてみたいことなど 	<p>活動を通してではないが…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化や人口減少にともない社会教育関連施設の利用状況や今後の集中と選択は新潟市でも必要になるのか？（新潟市内の社会施設の状況と利用者数などの活用状況は如何？） ・ 「障がい者の学びの機会の提供に向けた取組について」は取り扱わなくて良い？ ・ 学校地域協働活動については？担い手問題とか…。

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	小倉 壮平
<p>これまで行ってきた社会教育に関わる活動について</p>	<p>所属 新潟市市民活動支援センター：市民活動、NPO 活動の支援 株式会社リトモ：KOKAJIYA をはじめとした飲食店企業。</p> <p>広い意味では社会教育に関わっているが、イベント企画や地域づくりの活動を通じて、市民が関われるタッチポイントを作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわむロック FESTIVAL：県内若手アーティスト育成と、音楽を通した豊かなまちづくりのためのイベント。 ・弥彦 JAZZ Festa!：大人の音楽による地域活性イベント ・灯りの食邸 KOKAJIYA：空き家再生事業から誕生した県内でもトップクラスのイタリアン系創作レストラン。 ・伝統食用菊りゅうのひげ復活プロジェクト ・岩室あなぐま芸術祭（休止中）：温泉街全体で取り組むアウトサイダーアートの祭典。 ・新潟市ネットワーク化事業アドバイザー：次世代の市民プレイヤーの発掘とネットワーク作りで西区、西蒲区、南区でコーディネーターを務める。などジャンル問わず、幅広く越境した取組サポートを行なっている。
<p>その他自由記載 例) ・これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・社会教育委員会議として調べてみたいことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの委員（役割）と、これから委員に求められることは？社会教育委員の在り方の検討。 ・学校教育との連携。既成・規制の囚われない柔軟な連携へ。 ・社会教育の豊かさが暮らしの豊かさにつながる、と理想像を描くとしたら何を学んでいく必要があるのか？ ・いま「心理的安全性」というキーワード、広く使われるようになってきた。このあたりの学びを深める機会を作っても良い。

氏 名	木村 いほ子（公益財団法人新潟県女性財団 専門員）
これまで行ってきた社会教育に関わる活動について	<p>○山梨から新潟へ 結婚を機に新潟市に住み始めて 34 年。知り合いゼロの中で、子育てをスタート。「誰とも（夫以外）話をしない」「狭い行動範囲の中」で生活していましたが、それが「当たり前」、疑問にも感じていませんでした。だって、県外出身だし、「お母さんだから」「妻だから」「子どもファーストで」（自分のことは後回し…）。</p> <p>○『子どもからの自立』（伊藤雅子著）と母子分離の学習会「木馬の会」との出会い 子どものことは大好き、でもどこか満たされず、イライラ、モヤモヤ…「なんで私だけ」と。「お母さんなんだから、仕方がないでしょ。（頑張って）」「他のお母さんも、みんなやっているよ。（だから、頑張って）」と激励を込めてのメッセージは、「そうだよ」と受け入れつつも、「本当にそうなの？」と益々、満たされず。そんな時、1 冊の本と母子分離の学習会に出会ったことがきっかけで、「おとなが学ぶ」ということを知り、学ぶ大切さを実感。まさしく「新潟市の社会教育」との出会いでした。（この出会いが今の私を創ったと言っても過言ではありません。）</p> <p>○「新潟市家庭教育支援者養成事業」を修了 公民館等での学びを重ね、公民館事業の企画運営にも関わり、H8 年から 3 年間の養成事業に参加、家庭教育等について学ぶ機会を得ました。修了後は女性セミナーや家庭教育学級などの講師を務めています。</p> <p>○「子どもの人権」と出会い、目からウロコ 子どもへの暴力防止を核とした NPO 法人に 10 年間在籍。子どもの人権を保障するためにも、一番近くにいるおとな（特に保護者）が、子どもの成長とともに、おとな自身が学び成長していくことが大事と改めて実感。ひとりひとりが個性と能力を発揮し、自らが選択できるように。エンパワメントの視点をベースに、日々活動中。</p> <p>○ R2（2020）年 5 月～新潟市社会教育委員</p>
その他自由記載 例) ・これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・社会教育委員会議として調べてみたいことなど	<p>【社会教育の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの場の創出 変化に対応した学びの場を提供できているか？→ 例) 子育て期の親が学ぶ場の提供（共働き世帯の増加）・ニーズとシーズ：要求課題の変化と普遍的で大切な必要課題を伝えているか？ 学び手の多様にどう応えるか？ ・ 社会教育のそもそも論 競合相手はどこか？ 求められているのか？ 不要なのか？ 必要なのか、それはなぜ？ <p>【社会教育委員会議として調べてみたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建議 before/after コロナ禍に対面からオンラインへ。その後、対面に戻ったのか？ 「学び」の変化はあるのか？そもそも「学び」は求められているのか？「社会教育」が忘れてはいけないことは何か、譲れないものは何か。 ・ 社会教育 before/after 同じ考え方、アプローチでいいのか？ 例) 30 年前の私と今の私／社会の変化、市民の意識、価値観の変化に追いついているか？ 変化しているか？

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	佐藤 裕紀
<p>これまで行ってきた社会教育に関わる活動について</p>	<p>■千葉時代（20010 年～2012 年度） 子どもの自由な遊び場、民主的な参画、地域資源をつなぐ学び場づくり ・四街道プレーパークどんぐりの森スタッフ（冒険遊び場） ・四街道こども記者クラブ代表 ・四街道市みんなで地域づくりセンターサポートスタッフ（非常勤） ■デンマーク教育大学（DPU）に在籍（2012 年～2013 年度） ・デンマークの生涯学習政策、ノンフォーマルな教育実践について研究 ■新潟時代（2014 年度～現在） 社会的包摂と生涯学習・社会教育、子ども・若者の居場所、ケア・教育と民主主義の研究・実践 ・ヒューマンライブラリーの研究・実施（2015 年～2019 年） ・シティズンシップ教育実践研究センターを学内で設け、「シティズンシップ教育入門」を新規開講。 ・阿賀野川ござれや花火大会で学生企画の花火、白根大凧合戦に学生と参加 ・日本生涯教育学会理事、新潟県生涯学習協会、ときわ会「新しい風」、公民館職員の方々との自主学習会 etc</p>
<p>その他自由記載 例) ・これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・社会教育委員会議として調べてみたいことなど</p>	<p><課題> ・新潟市において、「生涯学習」の施策が「学校教育以外」として捉えられて展開している印象がある。本来的には学校教育、まちづくり全般と関わって取り組まれるべき。「社会教育」の施策でも、博物館、文化施設、スポーツ関連などが含まれていない点が不思議である。 ・市の社会教育の施策、重点が不明確（or 浸透不足）で現場は困っている？ ・欧州では、経済成長と社会的結束の両立を目指す戦略内に生涯学習が位置づけられている。日本（新潟市も？）では市民の余暇という要素が強い傾向。 <関心> ・部活動の地域移行（体験格差）、教育機会確保法の制定や学びの多様化学校等の学校内外での多層的な学び場、居場所づくりの検討 ・施設の複合化・統合化が進む中で、学び・ケアの領域での支援する/支援されるを越えた、皆が作り手になれる「ごちゃまぜの場」の具体像 ・各社会教育委員の多様な関心、専門性を活かせる形で新潟市の建議をつくっていける形を考えたい（生涯学習の施策づくり etc.）。</p>

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	司山 園美
<p>これまで行ってきた社会教育に関わる活動について</p>	<p>○カルチャーMIX フェスタ実行委員会 ステージ（歌、ダンス、芝居、お笑いなど）と展示（絵画、写真、書道、立体物など）の表現の場の提供と、その運営（企画、制作、音響、照明など）などの活動。</p> <p>○創作表現集団 D-Soul 歌、ダンス、芝居など様々な舞台表現を取り入れた表現集団。舞台をつくる過程を通じての自己表現の場作りや若者育成を行う。</p> <p>○地域教育コーディネーター 学校、地域、社会教育施設の連携できる事業の取り組み。 （浴衣でまち歩き、英語で地域貢献、おばけ屋敷）</p>
<p>その他自由記載 例) ・これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・社会教育委員会議として調べてみたいことなど</p>	<p>○社会教育施設のあり方 公民館、図書館、生涯学習センター、コミュニティセンターなどの需要と利用する年代などから見えるそれぞれのあり方や今後の取り組むべき方向性</p> <p>○社会教育活動を円滑に進めるためのキーパーソンのづくり方</p>

社会教育と私

社会教育委員のご指名をいただくまで、自分の日頃の活動が「社会教育」という言葉の括りに入るという自覚は何も持っていませんでした。

私の日頃の活動は、本好きの方を増やしたい、子どもたちにその成長過程でたくさんの本に触れてもらいたい、そして自分も絶えず本に触れていたいという思いから、「豊栄図書館」設立と同時に、有志たちで図書館及び本を広めていこうという主旨の団体「豊栄図書館応援団」をつくり「友の会」的役割でお話の部屋、返却本の配架作業などで活動してきました。また、一般の方と本をつなぐ機会となることを目指して、

- * 「読書会」(短い物語を読んでその感想や背景について話し合う)
- * 「物語を訪ねる旅」(絵本や物語に触れる場所を訪れる会。Ex (浜田広助記念館、黒姫童話館、岩手県花巻市宮沢賢治、夕鶴の里、など)
- * 「ビブリオバトル」(おすすめ本を限られた時間で紹介し、投票でチャンプ本を決める)なども開催してきました。

その活動の延長線上で、個人として小、中学校での朝読書、読書月間での「読み聞かせ」や、「ストーリーテリング」などを主に北区を中心に小中学校、児童センターなど8か所ほどで行っています。

それと同時に「演劇」「朗読」も色々な楽器を演奏する方々と一緒に、「平和」「命の大切さ」「人間愛とは？」などのテーマ性を持った作品の公演などを行っています。今年4月には、演劇「南吉のきつねたち」という新美南吉の2つの童話を一緒にして台本を書き、「人間とは本当にいいものと言えるのか？」というテーマの演劇を公演し、好評を博しました。

演劇ではその代表的なものとしては「夏の空」という原爆で家族を失った方々の手記や、原爆詩などを綴った朗読劇があります。「二度と繰り返してはならない戦争の悲劇」「核の恐ろしさ」を訴えることはもちろんですが、そうした惨劇の中でも失われることのなかった、「家族愛」や「人間愛」、「人間としての尊厳」が描かれています。終戦50年の年(1995年)から続けていますので今年で「29年間」継続してやっております。私のライフワークといえるかもしれません。「演劇」や「朗読」を通して、忙しい生活の中でほんの少し、立ち止まって考える時間を作っていただきたいと思いこれらの活動をしています。

これらすべて、自分が単に好きだから、趣味としてやってきたという観念しかありませんし、「社会教育」などという言葉で表すにはおこがましい感もありますが、かかわり続けていることの一つには、図書館、公民館などの施設を敷居が高いと思っている方々にも気軽に立ち寄って市民の憩いの場、市民をつなげる場となりうる図書館、公民館などの在り方を考え、読書を通して「人としての情緒」を持てる子どもたちを育てたいという思いがあります。もう一つは、今でも世界各地で起こっている内戦や戦争、多くの命を奪うことになる戦争の悲劇を若い方たちに知っていただき、「自分の命」、「人の命」が鴻毛より軽んぜられている昨今、「いま生きていること」の大切さを考えていただきたいと思い、小、中、高校などでの、年代を越えた形での交流についてもっと深めて行ければとおもっています。いろいろな立場の方々が参加して、それぞれの目指している方向が違う中、あまり対象とすることの範囲が広すぎると、深めていく事が難しいと思います。もう少し焦点を絞った形で実現可能な方向性が見える提言を作り上げていく事も模索していけたらと思います。

白神道子

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	竹田 暢美
これまで行ってきた社会教育に関わる活動について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校教員 36 年（大学で野外活動を研究） ○ 小学校教員として，県教委や市教委，公民館主催のキャンプ事業の指導者として協力（春夏秋冬） ○ 平成 10 年 社会教育主事資格取得 ○ 新潟市教育委員会青少年課（生涯学習推進課の前身）指導主事として勤務（小中学生キャンプ，合宿通学，松之山ホームステイ，ふれあいスクール事業に係る） ○ 新潟県キャンプ協会に所属（会計監査） → キャンプインストラクター ○ ときわ会生涯学習を進めるグループ “新しい風”に所属（会長） ○ 大学時代の有志と「新潟県野外教育研究会」を設立（副会長） → 毎年，夏～秋にかけて親子キャンプ，小中学生キャンプを企画・運営 毎年，冬に小中学生スキースクールを企画・運営
<p>その他自由記載</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・ 社会教育委員会議として調べてみたいことなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育の範囲が広範囲すぎる。広く浅くも必要だが，早急に対応すべきことには重点的に取り組むことが求められる。新潟市の実態，ニーズはどこにあるのか・・・喫緊の課題は何なのか・・・新潟市としてどのように考えているか知りたい。

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	羽賀 万起子
<p>これまで行ってきた 社会教育に関わる 活動について</p>	<p>■2000～2005 年：幼稚園教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任。 ・子育て支援施設の運営にも参加。 <p>■2006～2012 年 12 月：放課後児童支援員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時職員（3 ヶ月）→正規職員 ・ひまわりクラブのクラブ委員として、現場の責任者を担当。 ・妊娠、出産のため退職。 <p>■2015 年 9 月～：(株) Dream Advance</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年 4 月に任意団体「ツインズトリプルカフェ」立ち上げ（新潟県少子化対策モデル事業）。多胎支援事業を開始。 <p>■2018 年 5 月～：ゆめのき学園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018 年～2023 年、乳幼児期の子どもの育ち支援事業。 ・2018 年、スイートポテトの会（新潟市）の委託事業を開始。 ・2018～2019 年、ピアサポート事業（新潟県 地域の子育て力育成事業） ・2019 年、坂井輪・坂井東ひまわりクラブの指定管理事業を開始 ・2020 年、ツインズトリプルカフェサンデー事業（新潟県 地域の子育て力育成事業） ・2020 年、新通つばさひまわりクラブの指定管理事業を開始 ・2020 年、イロトリドリ（民間の学童保育）をオープン→2021 年こどもおとな基地イロトリドリに改名 ・2021 年、おでかけサポート事業（新潟市）を開始 ・2022 年、イロトリドリでフリースクール事業を開始 ・2024 年 7 月、フリースクール等連携協議会に加盟予定 <p>■2024 年～：これからの学校のありかたを考える会 共同代表</p> <p>【放課後デザイナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって家庭・学校に続く第 3 の居場所である「放課後」 ・その可能性をひろげ、豊かな成長につなげる時間に変える「放課後デザイナー」と活動

	<p>【若い人のチャンスを作る取り組み】</p> <p>■ゆめてら 体験型の総合的な学習を通して、学びの面白さ・楽しさを子どもたちに届ける取り組み。 ・大学生が中心となって運営。若者のチャンスを広げるために発足した。</p> <p>■しるえるはうす ・2024年7月から事業スタート予定 ・「学びが楽しい」という体験を通じて、豊かな人生を作る力を養う知的探究の場。 ・ゆめてらと同じく、大学生が中心となって運営。</p>
<p>その他自由記載</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・社会教育委員会議として調べてみたいことなど 	<p>【私が考える課題1】子どもたちの多様な学び場をつくるには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市のフリースクール事業は、予算が不十分。 ・全国的に不登校特例校をつくる流れだが、新潟市は予算がなく計画もない。 ・新潟市は不登校教育相談コーディネーターやこども支援室の配置を進めているが、これらは学校に行けるけどクラスは入れない子の受け皿にしかなくていない。そもそも学校に行けない子への支援は現場の先生のみ任せられている。 ・公教育とフリースクールの連携が必要。そもそもフリースクール自体必要なのか。 ・現状の課題は、多様な学びの選択肢が足りないこと。公教育以外の多様な学び場に力を入れるべきと考える。 <p>【私が考える課題2】社会がもっと中高生を大切にするには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒所・退所した中学生から、ひまわりクラブのボランティアをやりたいという声 ・イロトリドリも中学生とのつながりができてきた ・労働人口や若者人口が減っている中、部活動もなくなる。社会の中の中に高生の行き場や活動の場が少ない。 ・中高生がのぞむまちづくり、居場所づくり。彼らがやりたいことができる、活躍できる場所づくりができれば。どんな風に生きたいのかを考える機会にもつながる。

	<p>・ひまわりクラブなどに、ボランティアで手伝いに行ける仕組み。その時間、学校に行けない子も単位にできればいいのでは。</p>
--	--

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	長谷川 雅朗
これまで行ってきた社会教育に関わる活動について	<p>平成 24 年度～令和元年度 新潟市立葛塚東小学校 P T A 役員（幹事 1 年、副会長 1 年、会長 6 年）</p> <p>令和 2 年度～令和 4 年度 新潟市立葛塚中学校 P T A 会長 コミュニティスクールモデル校</p> <p>平成 28 年度～令和 4 年度 新潟市小中学校 P T A 連合会 副会長 平成 30 年 日本 P T A 全国大会新潟大会運営</p> <p>平成 29 年度～令和 2 年度 新潟市こども・子育て会議委員（担当部会 放課後児童クラブ） 「新・すこやか未来アクションプラン 第 2 期」</p> <p>平成 26 年度～ 葛塚東コミュニティ協議会 評議委員、監査 福島潟自然文化祭 「雁迎火」運営</p> <p>下大口自治会 企画文化部長 地域イベント、葛塚まつり運営</p>
<p>その他自由記載</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・ 社会教育委員会議として調べてみたいことなど 	<p>最近、区役所や公民館に行くと、フリースペース等で勉強する子どもたちを多く見かけます。家庭でゆっくり勉強できる環境にないのかなと感じますが、それであれば、様々な場所にそのようにネット環境や静かな環境を整備して自由に学習できる場所を増やしていけるといいのかなと思っています。</p> <p>教育格差を低減するために 1 人親世帯や低所得世帯の子どもたち、学習の遅れを感じる子どもたちを対象にした学習補助をもっと拡充させられたら良いのかなと感じます。（大学生ボランティア等を大いに活用しながら）</p>

第 36 期新潟市社会教育委員会議（第 2 回） 意見交換 発表資料

氏 名	山岸 則子
これまで行ってきた社会教育に関わる活動について	<p>西内野小学校、内野中学校地域教育コーディネーター 西内野小学校ふれあいスクール運営主任 新潟市子ども子育て会議委員 西地区公民館活動協力員 坂井輪地区公民館運営審議員 西区自治協議会 西内野コミュニティ協議会事務局</p>
<p>その他自由記載 例) ・これまでの活動を通して感じる「社会教育の課題」 ・社会教育委員会議として調べてみたいことなど</p>	<p>取り組んでみたいこと 子どもたちを取り巻く環境の変化に応じた教育課程と社会教育の連携 地域を核にした社会教育の推進</p>

キーワード	第36期新潟市社会教育委員会議で調べてみたいことなどの抜粋	提案委員
生涯学習の施策	各社会教育委員の多様な関心、専門性を活かせる形で新潟市の建議をつくっていきける形を考えたい（生涯学習の施策づくりetc.）	佐藤議長
生涯学習のニーズ	一般市民のニーズがどれくらいあるのか 公的な取組がどの程度周知されて、認知度はどれくらいあるのか	今井委員
生涯学習のニーズ	社会教育の範囲が広範囲すぎる。広く浅くも必要だが、早急に対応すべきことには重点的に取り組むことが求められる。新潟市の実態、ニーズはどこにあるのか…喫緊の課題は何なのか…新潟市としてどのように考えているか知りたい。	竹田委員
地域学校協働活動	地域学校協働活動については？担い手問題とか	江口副議長
社会教育	before/after 同じ考え方、アプローチでいいのか？ 例）30年前の私と今の私／社会の変化、市民の意識、価値観の変化に追いつているか？変化しているか？	木村委員
地域クラブ活動	部活動の地域移行（体験格差）	佐藤議長
地域と社会教育	地域を核にした社会教育の推進	山岸委員
社会教育施設の利用状況	少子高齢化や人口減少にともない社会教育関連施設の利用状況や今後の集中と選択は新潟市でも必要になるのか？ （新潟市内の社会施設の状況と利用者数などの活用状況は如何？）	江口副議長
社会教育施設のあり方	公民館、図書館、生涯学習センター、コミュニティセンターなどの需要と利用する年代などから見えるそれぞれのあり方や今後の取り組むべき方向性	司山委員
社会教育施設のあり方	図書館、公民館などの施設を数居が高いと思っている方々にも気軽に立ち寄って市民の憩いの場、市民をつなげる場となりうる図書館、公民館などの在り方を考え、読書を通して「人としての情緒」を持てる子どもたちを育てたい	白神委員
社会教育委員のあり方	これまでの委員（役割）と、これから委員に求められることは？ 社会教育委員のあり方の検討	小倉委員
社会教育人材	社会教育活動を円滑に進めるためのキーパーソンのづくり方	司山委員
学びについて	社会教育の豊かさが暮らしの豊かさにつながる、と理想を描くとしたら何を学んでいく必要があるのか？	小倉委員
学びの変化	建議 before/after コロナ禍に対面からオンラインへ。 その後、対面に戻ったのか？「学び」の変化はあるのか？ そもそも「学び」は求められているのか？ 「社会教育」が忘れてはいけないことは何か、譲れないものは何か。	木村委員
障がい者生涯学習	「障がい者の学びの機会の提供に向けた取組について」は取り扱わなくて良い？	江口副議長
学習スペース	様々な場所にネット環境や静かな環境を整備して自由に学習できる場所を増やしていけるとよいのではないか	長谷川委員
学習補助の拡充	教育格差を低減するために1人親世帯や低所得世帯の子どもたち、学習の遅れを感じる子どもたちを対象にした学習補助の拡充	長谷川委員
ごちゃまぜの場	施設の複合化・統合化が進む中で、学び・ケアの領域での支援する/支援されるを越えた、皆がつくり手になれる「ごちゃまぜの場」の具体像	佐藤議長
子どもたちの多様な学び場	子どもたちの多様な学び場をつくるには？	羽賀委員
居場所づくり	社会がもっと中高生を大切にするには？ 労働人口や若者人口が減っている中、部活動もなくなる。社会の中の中に高生の行き場や活動の場が少ない。	羽賀委員
心理的安全性	「心理的安全性」についての学びを深める機会	小倉委員
多世代交流	小、中、高等学校などでの、年代を越えた形での交流についてもっと深めて行ければ	白神委員
教育機会確保法、多層的な学び場	教育機会確保法の制定や学びの多様化学校等の学校内外での多層的な学び場	佐藤議長
教育課程と社会教育の連携	子どもたちを取り巻く環境の変化に応じた教育課程と社会教育の連携	山岸委員
学校教育との連携	学校教育との連携。既成・規制の囚われない柔軟な連携へ	小倉委員
公的補助金	市民レベルでの活動がたくさんある中で、補助金などの公的資金がどのように活用されているか。また、その補助金等の決定の手順について、偏りがないのかどうか。	今井委員